令和7年度 斎藤清美術館 館長講座・学芸員講座

【館長講座】

■ 第1回 「贋作事件 ア・ラ・カルト」
7月12日（土） 14:00－15:30

洋の東西を問わず、古来美術品の贋作は後を絶たない。
贋作とはなにか。なぜ贋作はつくられ、人はだまされるのか。またその手口は。
贋作を見抜くのは経験か科学か。
欧米と日本から幾つか贋作事件をとりあげて考察する。

■ 第2回 「イタリア統一運動時代の美術」
9月27日（土） 14:00－15:30

ルネサンスと次のバロック時代に美術文化の一大中心地であったイタリアは、小王国や公爵領などに分立していたために長く強大国に支配され、ようやく19世紀半ばになって王国として統一された。本講座では、「リソルジメント（統一運動）」という名のもとに社会がダイナミックに動いたこの時代の興味深いイタリア美術を概説する。

■ 第3回 「5つのパリ万博と美術」
11月22日（土） 14:00－15:30

今年大阪で2度目となった万国博覧会は、1851年ロンドン（イギリス）を皮切りに世界各地で開催されてきた。中でもパリは、1855年から1937年まで計5回開催、都市計画と連動させながら今日に残る建造物をつくり、ワインなど伝統産業やフランス発の美術文化を世界に向けて発信してきた。その歩みと思想について概説する。

【学芸員講座】

■ 第1回　木目・雲母（きら）・余白ー　斎藤清　水を描く
6月28日（土）　14:00ー15:30

気体にも固体にも姿を変え、恵みも災厄ももたらす、水。これほど身近にありながら、とらえどころのない物質を表すために、古今東西の芸術家が心血を注いできました。斎藤清もその一人。版木の木目・彫り目、雲母（きら）摺り、紙の余白。まさに水のごとく変幻自在の表現技法から生まれた、斎藤清による多彩な水のイメージに迫ります。

■ 第2回　コレクターという存在
8月16日（日）　14:00ー15:30

作品を手に入れる。それは、美術愛好家にとっての究極の喜びです。さらにその情熱は時として、個人の想いをはるかに超える、大きな意義を持つことがあります。例えば、当時はまったく評価されていなかった印象派の作品を収集し続けたコレクター。あるいは、若い芸術家たちのために、現地に行かずとも西洋の名画を鑑賞できる場を日本に作りたいと作品の購入を援助し続けたパトロン。彼らがいたから、数多くの名品が失われることなく後世に伝えられ、今もたくさんの人々がそれらを楽しめる機会の創出につながっています。そんなコレクターと美術の、切っても切れない深い関係を紐解きます。

■ 第3回　フォトジャーナリスト・高田美
10月11日（土）　14:00ー15:30

高田美（たかた・よし　1916-2009）は、パリを拠点に活動したフォトジャーナリストです。1947年フランス通信社東京支局に入社して通訳兼助手を勤めたのち退社し、1954年に単身パリに渡ります。以降堪能なフランス語を活かし、日本とフランスの文化の橋渡しに貢献する一方、パリを訪れていた木村伊兵衛の通訳を勤めたことがきっかけで写真家としても頭角を現し、新進気鋭のデザイナーだったピエール・カルダンの作品の記録撮影から広報、さらにはショーのプロデュースを担うなどその右腕となって活躍しました。花の都で世界の著名人・芸術家たちと渡り合った高田のかっこいい生涯と、その中で出会った斎藤清との交流を紹介します。